21世紀COEプログラム事後評価

文部科学省が世界のトップレベルの研究教育拠点の形成を支援するためにおこなっている「21世紀COEプログラム」に、2002年度(平成14年度)に採択され2007年度（平成19年度）で事業終了した本学の「電子社会の信頼性向上と情報セキュリティ」について、21世紀COE委員会による事後評価結果が出ました。

総括評価は、「設定された目的は概ね達成され、期待どおりの成果があった」というものでした。

拠点形成計画全体については、「本COEは情報セキュリティという現代社会に大きなインパクトを与える項目に焦点を当て、学問・技術・ビジネス・制度にまたがる教育研究を推進するユニークなプログラムであり、電子社会・情報セキュリティ副専攻の設立、情報セキュリティ科学専攻の設立、研究開発機構との連携、外国大学の拠点との交流、国際シンポジウムの開催など、拠点としての活動を積極的に推進し、本プログラム終了後も継続できる体制を構築したこと」が評価されています。

また、人材育成面で「若い研究者の育成」、研究活動面においては「理論研究におけるフルペーパーの発表」などが、今後の課題として挙げられています。

本学では、今後も情報セキュリティ分野において世界的な教育研究拠点の形成とプロフェッショナルの育成に努めていきます。

総務省の研究資金制度
SCOPEに新規採択

総務省の2008年度（平成20年度）戦略的情報通信研究開発推進制度（SCOPE）に、辻井重男研究開発機構教授を研究代表者とする「量子コンピュータの出現に対抗し得る公開鍵暗号の研究」が採択されました。

研究概要は、「量子コンピュータが実用化された場合、現在の安全性を支えている暗号は安全性の根拠が失われてしまう。本研究開発では、量子コンピュータが実用化された場合においても、現行のネットワークあるいは新世代ネットワーク上で使用可能な安全性の高い公開鍵暗号方式について提案する」ものです。

戦略的情報通信研究開発推進制度（SCOPE※）とは、豊かなユビキタスネット社会の実現に向けて、ICT分野のイノベーションを生み出すことを目指し、総務省が定めた戦略的な重点研究開発目標を実現するための独創性・新規性に富む研究開発を支援する競争的資金制度です。

2008年度から新規に実施する研究開発課題については、大学、民間企業、公的研究機関等に所属する研究者から合計300件の応募があり、提案課題の審査においては、専門的知識を有する複数の評価者による評価（ピア・レビュー）及びプログラム毎に設置した評価委員会による総合的な評価からなる二段階の評価を実施し、その結果を踏まえて新規採択課題54件が決定されました。

※SCOPE : Strategic Information and Communications R&D Promotion Programme